



あなたの、いちばんであるために。2015. 4 ~ 6月期 No. 030

# やましん

## 中小企業景況レポート

山梨信用金庫 総合企画部  
〒400-0032 甲府市中央 1-12-36  
TEL 055-225-0213  
ホームページアドレス  
<http://www.yamasin.jp/>

2015. 7. 15 発行

### ■ 調査要領 ■

1. 調査対象  
当金庫営業エリア内の取引先中小企業 120 社
2. 調査時期・期間  
調査時期：2015年6月1日～5日  
調査期間：今期実績 2015年4月～6月  
来期見通し 2015年7月～9月
3. 調査方法  
当金庫職員による訪問聞き取り調査
4. 分析方法  
DI を中心に分析

### ■ 調査対象と回答状況 ■

業種	企業数	回答数	回答率
製造業	30	30	100%
卸売業	15	15	100%
小売業	15	15	100%
サービス業	29	29	100%
建設業	23	23	100%
不動産業	8	8	100%
合計	120	120	100%

※ 国中地区 73 社、東部地区 30 社、相模原市周辺地区 17 社

### ※ DI (Diffusion Index) とは

各質問事項で「良い（増加）」とした企業割合－「悪い（減少）」とした企業割合の構成比との差（判断DI）による分析です。  
例えば、回答が以下のような場合のDIの算出方法は、次のとおりです。

（例）「良い・やや良い」の回答が50%、「変わらず」の回答が30%、「悪い・やや悪い」の回答が20%の場合

DIは  $50「良い・やや良い」 - 20「悪い・やや悪い」 = \underline{+30}$  となります。DI値が高いほど景気が良いことを示しています。

### 業況判断DI

業種	前期	今期実績			来期見通し		
		良い	悪い	DI	良い	悪い	DI
総合	1.7	24.2	35.8	▲11.6	25.0	28.3	▲3.3
製造業	▲3.3	30.0	36.7	▲6.7	33.3	16.7	16.6
卸売業	0.0	20.0	26.7	▲6.7	6.7	33.3	▲26.6
小売業	▲7.1	6.7	60.0	▲53.3	20.0	46.7	▲26.7
サービス業	10.3	34.5	41.4	▲6.9	34.5	27.6	6.9
建設業	8.7	13.0	21.7	▲8.7	17.4	26.1	▲8.7
不動産業	▲12.5	37.5	25.0	12.5	25.0	37.5	▲12.5

### 業種別景気天気図

業種	前期	今期	見通し
総合			
製造業			
卸売業			
小売業			
サービス業			
建設業			
不動産業			

※本レポートは、標記時点における情報提供を目的としています。また、掲載資料は、正確性・完全性を保証するものではありません。

31以上	11~30	10~▲10	▲11~▲30	▲30未満

# 概況

## <業況・売上・収益>

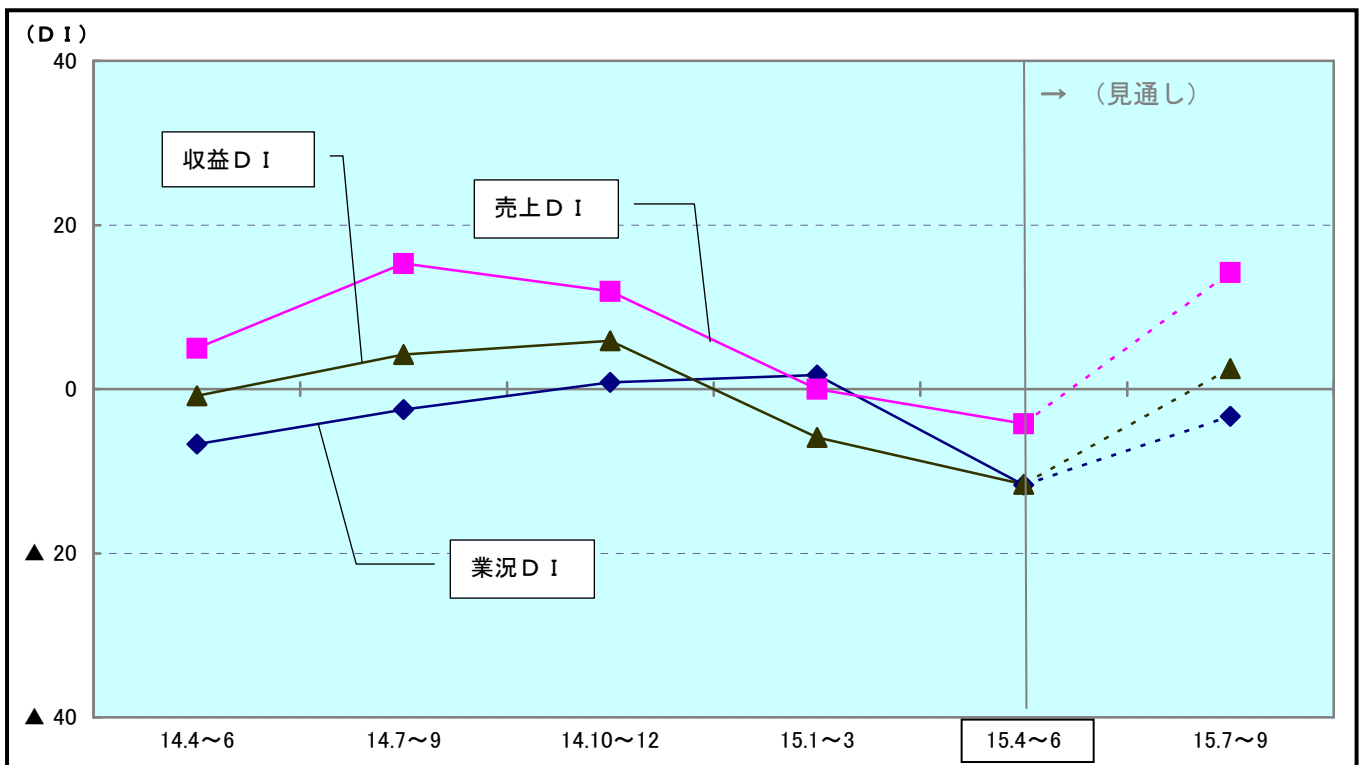
今期（4～6月）の全業種総合の業況判断DI（「良い」－「悪い」）は、前期（1～3月）の1.7から13.3ポイント悪化の▲11.6となりました（前年同期比4.9ポイント悪化）。業種別でみると不動産業以外の全業種で悪化しました。

また、売上DI（「増加」－「減少」）は、前期比4.2ポイント悪化の▲4.2となっています（前年同期比9.2ポイント悪化）。業種別でみると卸売業・サービス業・不動産業で改善したものの、その他の業種で悪化しました。収益DI（「増加」－「減少」）は、前期比5.9ポイント悪化の▲11.8となっています（前年同期比11.0ポイント悪化）。業種別でみると製造業・卸売業・不動産業で改善したものの、その他の業種で悪化しました。

全業種総合の来期見通し（7～9月）をみると、業況判断DIが▲3.3と、今期実績比8.4ポイントの改善が見込まれています。また、売上DIは14.2と、同18.4ポイントの改善、収益DIは2.5と、同14.3ポイントの改善が見込まれています。業種別の業況判断DIは、製造業・小売業・サービス業で改善が見込まれるものの、卸売業・不動産業で悪化が見込まれています。

### ■ 業況・売上・収益DIの時系列推移

	14.4～6	14.7～9	14.10～12	15.1～3	15.4～6	15.7～9 見通し
業況 DI	▲6.7	▲2.5	0.8	1.7	▲11.6	▲3.3
売上 DI	5.0	15.3	11.9	0.0	▲4.2	14.2
収益 DI	▲0.8	4.2	5.9	▲5.9	▲11.8	2.5



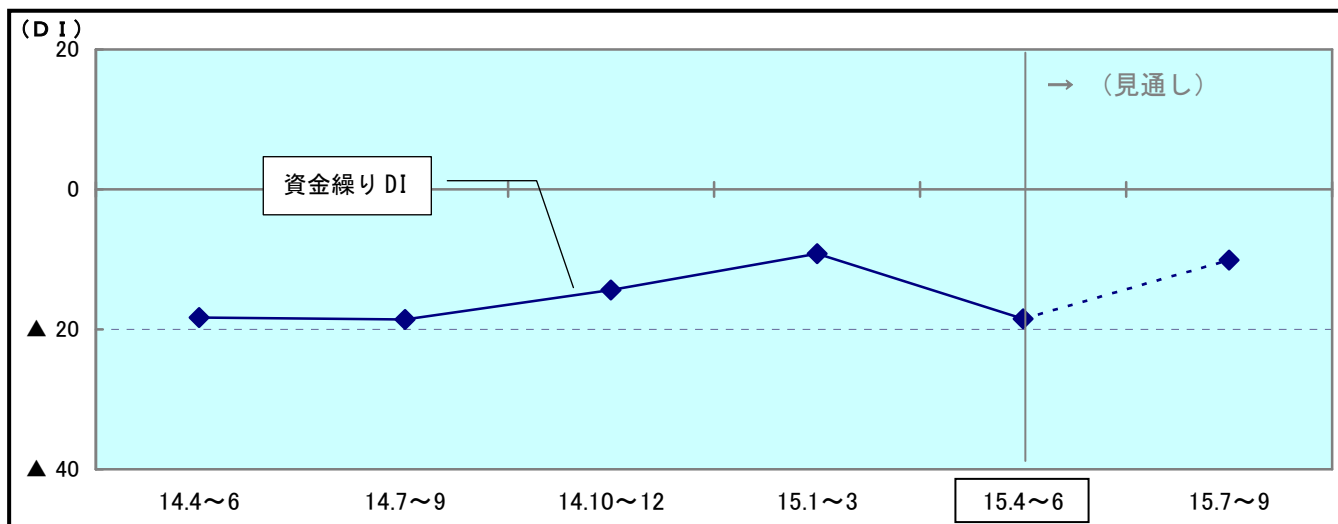
## <資金繰り>

資金繰りDI（「楽」－「苦しい」）は▲18.5と、前期比9.3ポイントの悪化となりました（前年同期比0.2ポイント悪化）。

また、来期の資金繰りDIは▲10.1と、今期実績比8.4ポイントの改善が見込まれています。

### ■ 資金繰りDIの時系列推移

	14.4~6	14.7~9	14.10~12	15.1~3	15.4~6	15.7~9 見通し
資金繰りDI	▲18.3	▲18.6	▲14.4	▲9.2	▲18.5	▲10.1



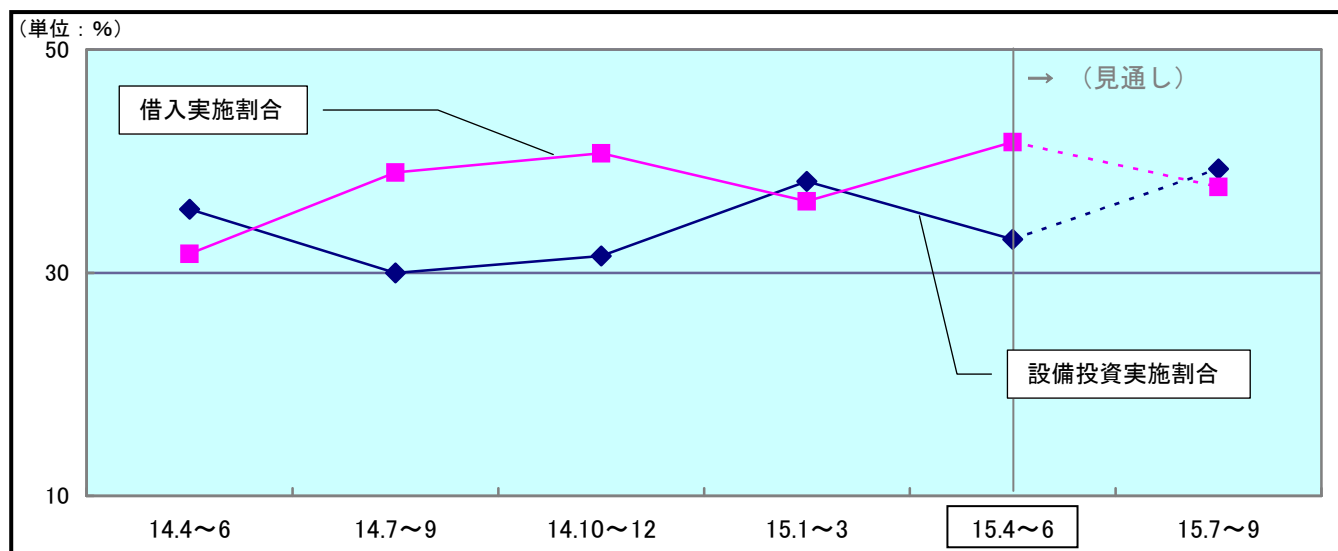
## <設備投資・借入動向>

不動産業を除いた設備投資実施企業割合は33.0%と、前期比5.2ポイント低下しています（前年同期比2.7ポイント低下）。また、来期の設備投資実施予定企業割合は39.3%と今期実績比6.3ポイントの上昇が見込まれています。

全業種総合の借入実施企業割合は41.7%と、前期比5.3ポイント上昇しています（前年同期比10.0ポイント上昇）。また、来期の借入実施予定企業割合は37.7%と、今期実績比4.0ポイントの低下が見込まれています。

### ■ 設備投資・借入実施動向の時系列推移

	14.4~6	14.7~9	14.10~12	15.1~3	15.4~6	15.7~9 見通し
設備投資実施割合	35.7%	30.0%	31.5%	38.2%	33.0	39.3
借入実施割合	31.7%	39.0%	40.7%	36.4%	41.7	37.7



## 【製造業】

今期の業況判断D Iは▲6.7となり、前期(1~3月)比3.4ポイント悪化しました(前年同期比7.1ポイント改善)。売上D Iは同3.4ポイント悪化の3.3、収益D Iは同3.3ポイント改善の0.0、資金繰りD Iは、同6.6ポイント改善の▲3.4となりました。

来期(7~9月)の見通しについては、業況判断D Iが今期実績比23.3ポイント改善の16.6、売上D Iが同23.4ポイント改善の26.7、収益D Iは同横ばいの0.0、資金繰りD Iが同6.9ポイント悪化の▲10.3と見込まれています。

### ■経営上の問題点 ( )内は前回順位

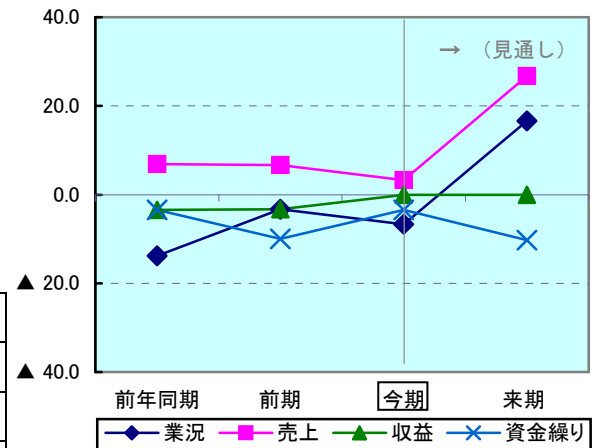
1	売上の停滞・減少(1)	43.3%
	利幅の縮小(1)	30.0%
3	原材料高(3)	30.0%

### ■当面の重点経営施策

1	販路の拡大(1)	50.0%
	経費の節減(2)	46.7%
3	新製品・技術の開発(3)	23.3%
	情報力の強化(3)	23.3%

### ■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲13.8	▲3.3	▲6.7	16.6
売上	6.9	6.7	3.3	26.7
収益	▲3.4	▲3.3	0.0	0.0
資金繰り	▲3.4	▲10.0	▲3.4	▲10.3



## 【卸売業】

今期の業況判断D Iは▲6.7となり、前期(1~3月)比6.7ポイント悪化しました(前年同期比26.6ポイント改善)。売上D Iは同60.0ポイント改善の20.0、収益D Iは同26.6ポイント改善の▲6.7、資金繰りD Iは、同6.7ポイント悪化の▲26.7となりました。

来期(7~9月)の見通しについては、業況判断D Iが、今期実績比19.9ポイントの悪化の▲26.6、売上D Iが同6.7ポイント悪化の13.3、収益D Iが同6.6ポイント悪化の▲13.3、資金繰りD Iが同13.4ポイント改善の▲13.3と見込まれています。

### ■経営上の問題点 ( )は前回順位

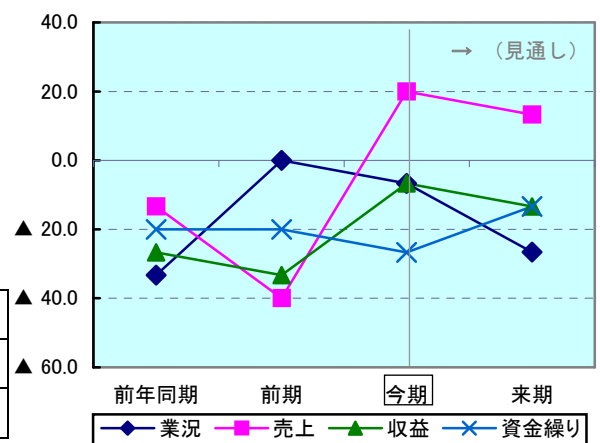
1	売上の停滞・減少(1)	53.3%
2	同業者間の競争の激化(4)	46.7%
3	取引先減少(4)	40.0%

### ■当面の重点経営施策

1	販路の拡大(1)	73.3%
2	経費の節減(2)	53.3%
3	品揃えの充実(3)	33.3%

### ■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲33.3	0.0	▲6.7	▲26.6
売上	▲13.3	▲40.0	20.0	13.3
収益	▲26.7	▲33.3	▲6.7	▲13.3
資金繰り	▲20.0	▲20.0	▲26.7	▲13.3



## 【小売業】

今期の業況判断D Iは▲53.3となり、前期（1～3月）比 46.2ポイント悪化しました（前年同期比 26.6ポイント悪化）。売上D Iは同 68.1ポイント悪化の▲46.7、収益D Iは同 61.0ポイント悪化の▲46.7、資金繰りD Iは同 11.9ポイント悪化の▲33.3とすべてのD Iで悪化となりました。

来期（7～9月）の見通しについては、業況判断D Iが今期実績比 26.6ポイント改善の▲26.7、売上D Iが同 53.4ポイント改善の 6.7、収益D Iが同 53.4ポイント改善の 6.7、資金繰りD Iが同 20.0ポイント改善の▲13.3とすべてのD Iで改善が見込まれています。

### ■経営上の問題点（）は前回順位

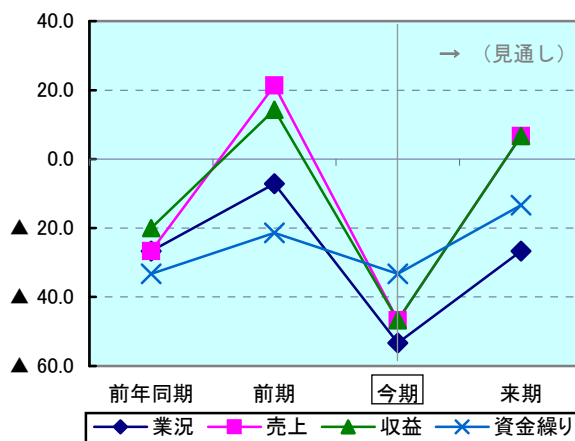
1	売上の停滞・減少(1)	66.7%
2	同業者間の競争激化(2)	40.0%
3	商圏人口の減少(5)	20.0%
	商店街の集客力の低下(7)	20.0%

### ■当面の重点経営施策

1	経費の節減(1)	33.3%
	宣伝・広告強化(2)	33.3%
3	教育訓練の強化(2)	26.7%
	品揃えの改善(4)	26.7%

### ■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲26.7	▲7.1	▲53.3	▲26.7
売上	▲26.7	21.4	▲46.7	6.7
収益	▲20.0	14.3	▲46.7	6.7
資金繰り	▲33.3	▲21.4	▲33.3	▲13.3



## 【サービス業】

今期の業況判断D Iは▲6.9となり、前期（1～3月）比 17.2ポイント悪化しました（前年同期比 16.9ポイント悪化）。売上D Iは同 3.4ポイント改善の 3.4、収益D Iは同 6.9ポイント悪化の▲6.9、資金繰りD Iは、同 3.5ポイント悪化の▲13.8となりました。

来期（7～9月）の見通しについては、業況判断D Iが今期実績比 13.8ポイント改善の 6.9、売上D Iが同 27.6ポイント改善の 31.0、収益D Iが同 27.6ポイント改善の 20.7、資金繰りD Iが同 10.4ポイント改善の▲3.4と全てのD Iで改善が見込まれています。

### ■経営上の問題点（）は前回順位

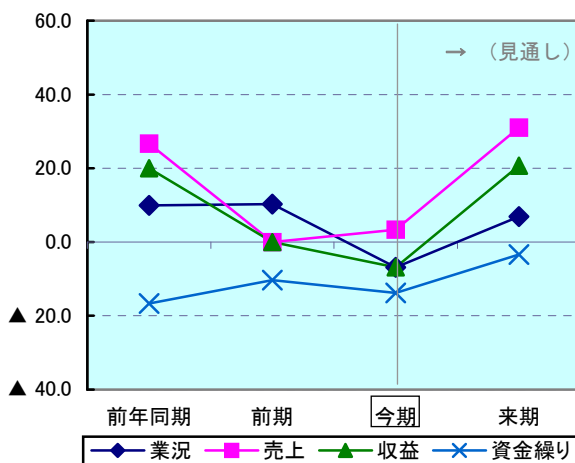
1	売上の停滞・減少(1)	44.8%
2	人手不足(2)	27.6%
	利幅の減少(5)	27.6%

### ■当面の重点経営施策

1	販路の拡大(2)	55.2%
2	経費の節減(1)	41.4%
3	人材の確保(3)	24.1%

### ■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	10.0	10.3	▲6.9	6.9
売上	26.7	0.0	3.4	31.0
収益	20.0	0.0	▲6.9	20.7
資金繰り	▲16.7	▲10.3	▲13.8	▲3.4



## 【建設業】

今期の業況判断D Iは▲8.7となり、前期（1～3月）比17.4ポイント悪化しました（前年同期比13.0ポイント悪化）。売上D Iは同47.8ポイント悪化の▲30.4、収益D Iは同36.4ポイント悪化の▲36.4、資金繰りD Iは、同39.1ポイント悪化の▲34.8と全てのD Iで悪化となりました。

来期（7～9月）の見通しについては、業況判断D Iが今期実績比横ばいの▲8.7、売上D Iが同17.4ポイント改善の▲13.0、収益D Iが同27.7ポイント改善の▲8.7、資金繰りD Iが同21.8ポイント改善の▲13.0と見込まれています。

### ■経営上の問題点（）は前回順位

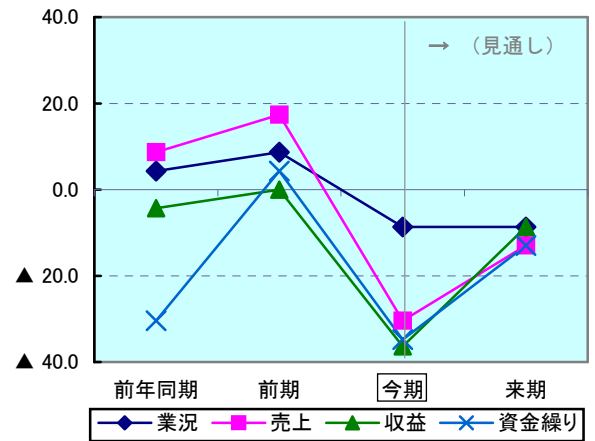
1	同業者間の競争の激化(2)	39.1%
2	利幅の縮小(1)	34.8%
3	材料価格の上昇(6)	30.4%

### ■当面の重点経営施策

1	技術力の強化(1)	43.5%
	情報力の強化(3)	43.5%
3	経費の節減(1)	39.1%

### ■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	4.3	8.7	▲8.7	▲8.7
売上	8.7	17.4	▲30.4	▲13.0
収益	▲4.3	0.0	▲36.4	▲8.7
資金繰り	▲30.4	4.3	▲34.8	▲13.0



## 【不動産業】

今期の業況判断D Iは12.5となり、前期（1～3月）比25.0ポイント改善しました（前年同期比横ばい）。売上D Iが同87.5ポイント改善の50.0、収益D Iが同87.5ポイント改善の50.0、資金繰りD Iが同横ばいの0.0となりました。

来期（7～9月）の見通しについては、業況判断D Iが今期実績比25.0ポイント悪化の▲12.5、売上D Iが同50.0ポイント悪化の0.0、収益D Iが同50.0ポイント悪化の0.0、資金繰りD Iが同12.5ポイント悪化の▲12.5と全てのD Iで悪化が見込まれています。

### ■経営上の問題点（）は前回順位

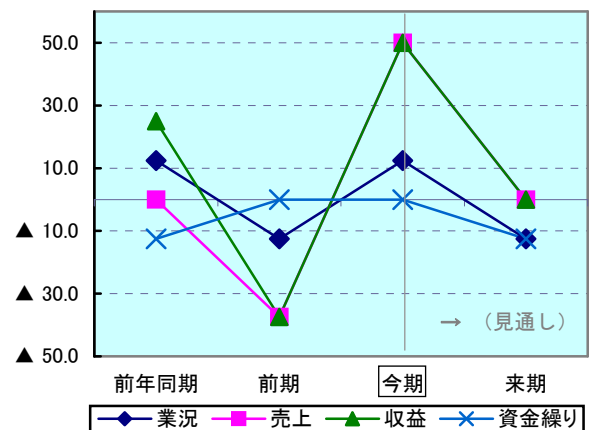
1	商品物件の不足(1)	50.0%
	売上の停滞・減少(2)	50.0%
2	人手不足(2)	37.5%
	同業者の競争の激化(5)	37.5%

### ■当面の重点経営施策

1	情報力強化(3)	50.0%
	経費の節減(1)	37.5%
2	宣伝・広告の強化(2)	37.5%
	販路の拡大(3)	37.5%
	人材の確保(3)	37.5%

### ■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	12.5	▲12.5	12.5	▲12.5
売上	0.0	▲37.5	50.0	0.0
収益	25.0	▲37.5	50.0	0.0
資金繰り	▲12.5	0.0	0.0	▲12.5



# <地区別D I の状況>

	国 中 地 区				東 部 地 区				相 模 原 市 周 辺 地 区			
	前年同期	前期	今期	来期	前年同期	前期	今期	来期	前年同期	前期	今期	来期
業況D I	▲11.1	▲1.4	▲19.7	0.0	0.0	16.7	3.3	▲6.7	5.9	0.0	▲5.9	0.0
売上D I	▲5.6	1.4	▲12.7	16.9	26.7	10.0	6.7	13.3	17.6	▲5.9	11.8	17.6
収益D I	▲11.1	▲4.3	▲21.4	2.8	20.0	3.3	6.7	3.3	17.6	▲11.8	▲5.9	5.9

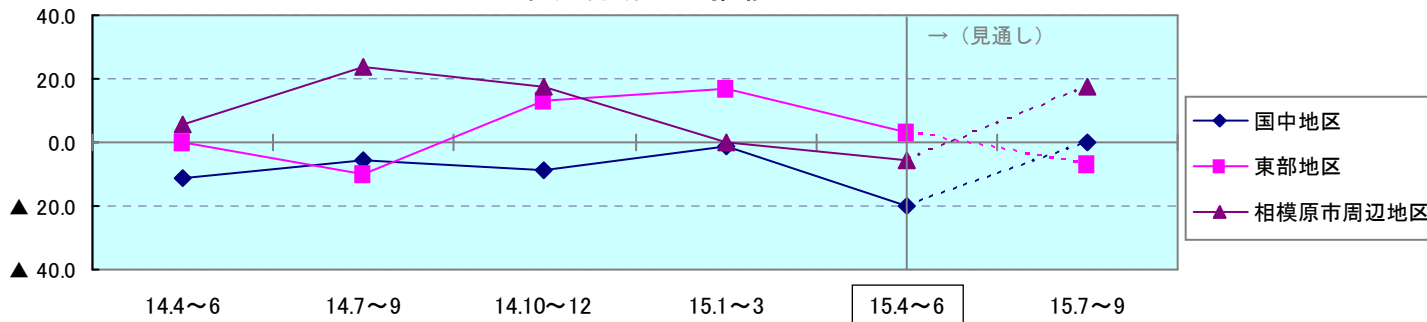
国中地区においては、業況判断D Iが▲19.7と、前期（1～3月）の▲1.4から18.3ポイントの悪化となりました（前年同期比8.6ポイント悪化）。また、売上D Iは前期比14.1ポイント悪化の▲12.7、収益D Iは同17.1ポイント悪化の▲21.4となりました。来期（7～9月）の業況判断D Iは今期実績比19.7ポイント改善の0.0が見込まれています。

東部地区においては、業況判断D Iが3.3と、前期の16.7から13.4ポイントの悪化となりました（前年同期比3.3ポイント改善）。また、売上D Iは前期比3.3ポイント悪化の6.7、収益D Iは同3.4ポイント改善の6.7となりました。来期の業況判断D Iは▲6.7と今期実績比10.0ポイントの悪化が見込まれています。

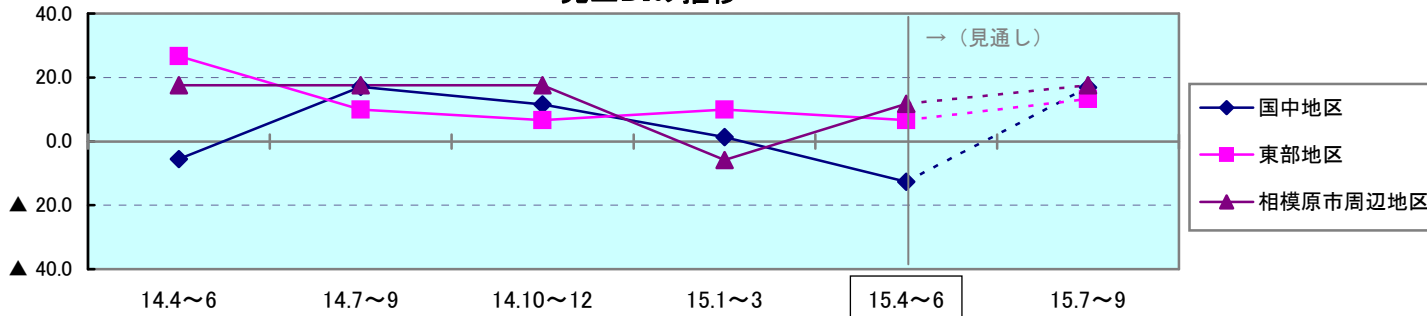
相模原市周辺地区においては、業況判断D Iが▲5.9と、前期の0.0から5.9ポイントの悪化となりました（前年同期比11.8ポイント悪化）。また、売上D Iは前期比17.7ポイント改善の11.8、収益D Iは同5.9ポイント改善の▲5.9となりました。来期の業況判断D Iは0.0と今期実績比5.9ポイントの改善が見込まれています。

地区別に見た景況感は、全ての地区で悪化しました。来期については国中地区と相模原周辺地区で改善が見込まれています。

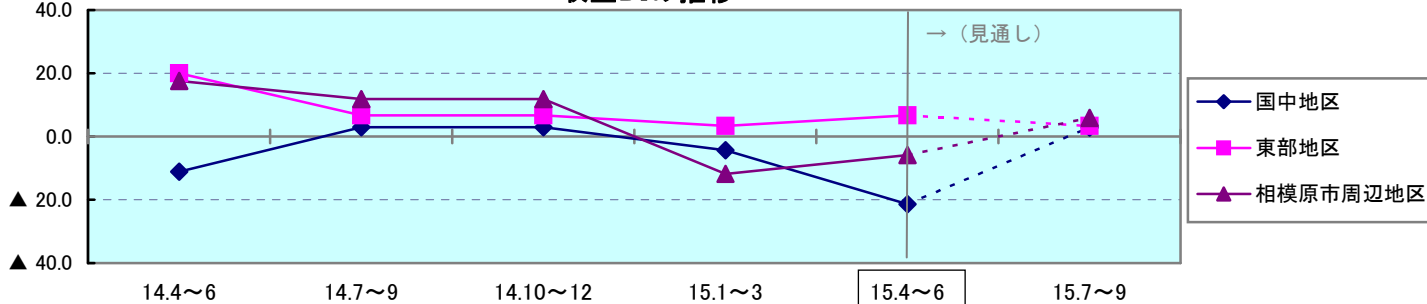
### 業況判断D Iの推移



### 売上D Iの推移



### 収益D Iの推移

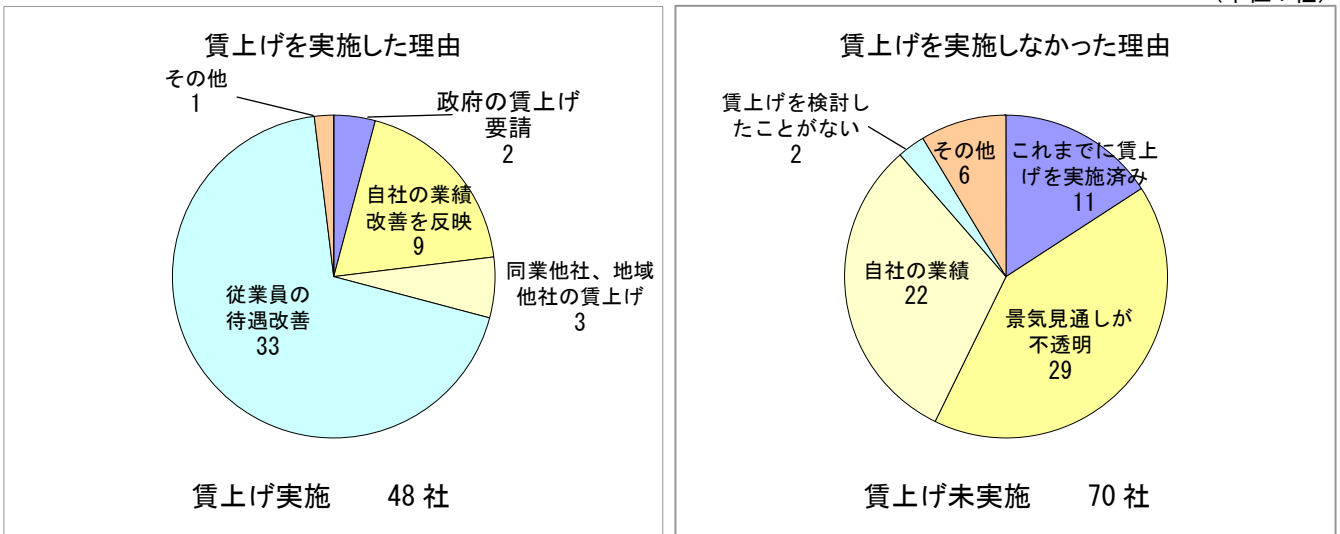


特別調査

## 中小企業の賃上げと人材確保への取組みについて

- ◆ 貴社では、今春、賃上げを実施しましたか。実施した場合はその理由についてお答えください。また、賃上げを実施しなかった場合、その理由についてお答え下さい。  
 (回答企業数：118社)

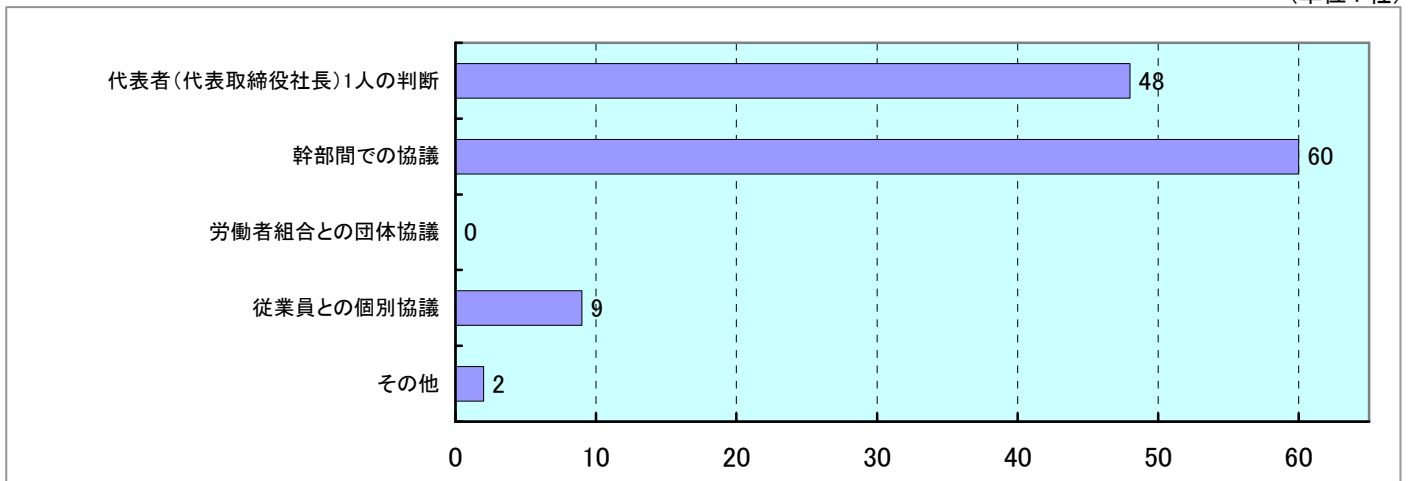
(単位：社)



今春の賃上げについては賃上げを「実施した」と回答した企業が48社(40.7%)、「実施していない」と回答した企業が70社(59.3%)となりました。賃上げを実施した理由としては、「従業員の待遇改善」との回答が33社(68.8%)と最も多く、次いで「自社の業績を反映」が9社(18.8%)となりました。実施をしなかった理由としては「景気見通しが不透明」が29社(41.4%)と最も多く、次いで「自社の業績」が22社(31.4%)と続いています。

- ◆ 貴社では、賃上げを実施する場合、どのような過程で決定しますか。  
 (回答企業数：119社)

(単位：社)



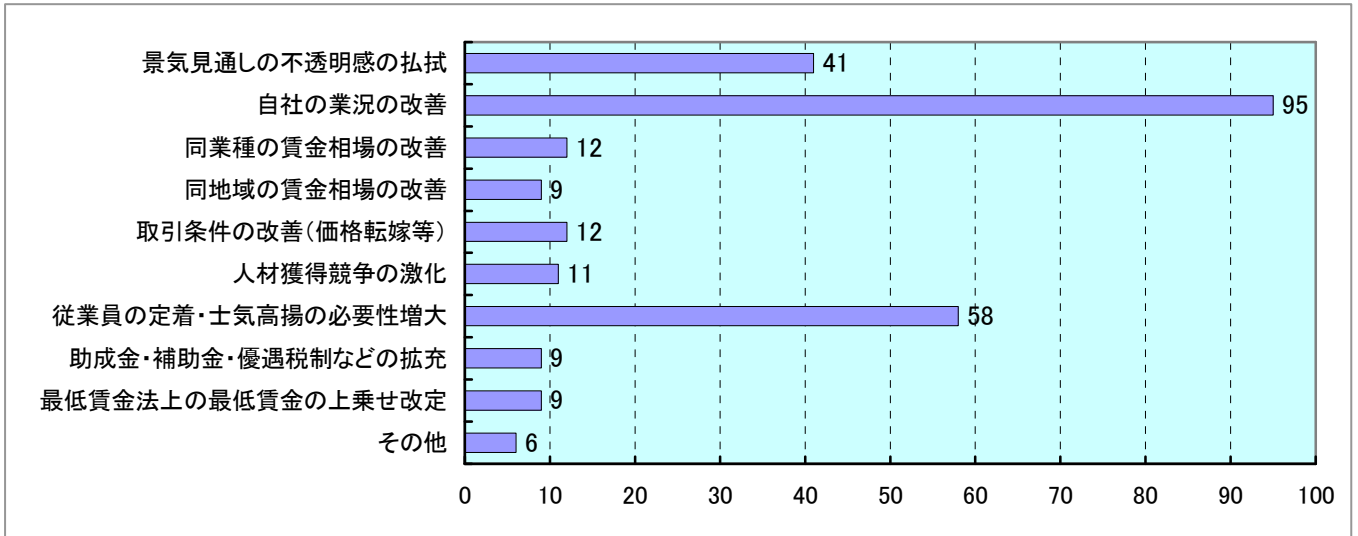
賃上げ実施を決定する過程については、「幹部間での協議」との回答が60社(50.4%)と最も多く、次いで「代表者(代表取締役社長)1人の判断」との回答が48社(40.3%)、「従業員との個別協議」との回答が9社(7.6%)と続いています。

代表者または幹部間での協議等、経営者の判断において賃上げの実施を決定している企業が大半となっています。



◆ 貴社では、通常、どのような条件が生じれば、賃上げを実施しようと思いますか。  
 (回答企業数：120社) ※各社3つ以内で複数回答

(単位：社)

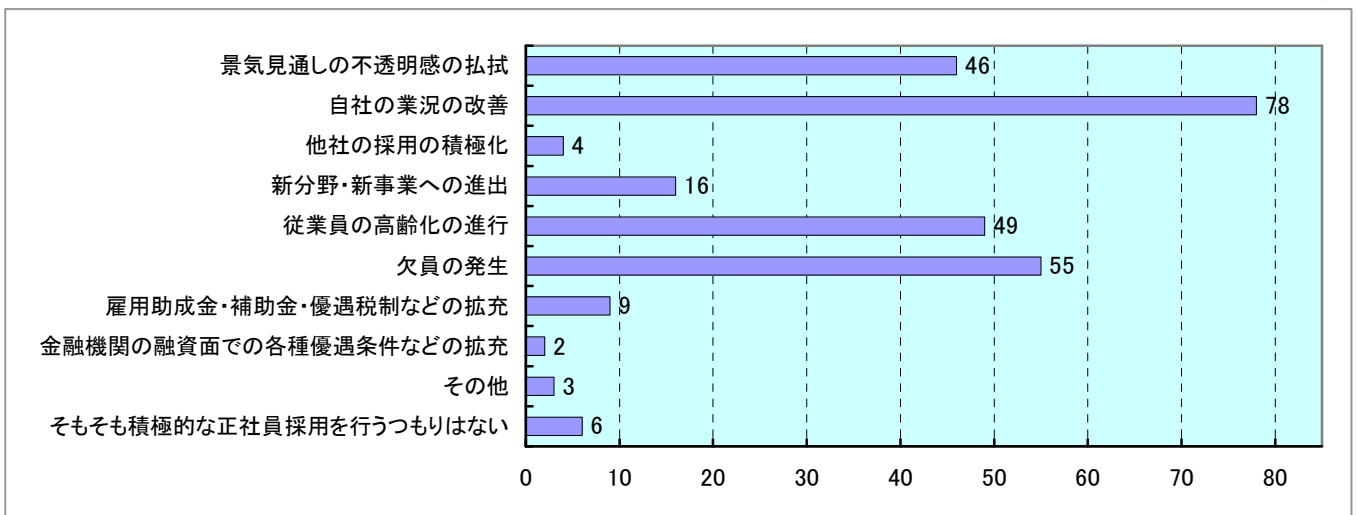


賃上げ実施の条件については、「自社の業況の改善」との回答が95社と最も多く、次いで「従業員の定着・士気高揚の必要性増大」が58社、「景気見通しの不透明感の払拭」が41社、「同業種の賃金相場の改善」、「取引条件の改善(価格転嫁等)」がそれぞれ12社と続いています。

なお、8割の経営者が「自社の業況の改善」が図られれば、賃上げを実施すると考えています。

◆ 貴社では、どのような状況になれば、より積極的な正社員採用をしようと思いますか。  
 (回答企業数：120社) ※各社3つ以内で複数回答

(単位：社)



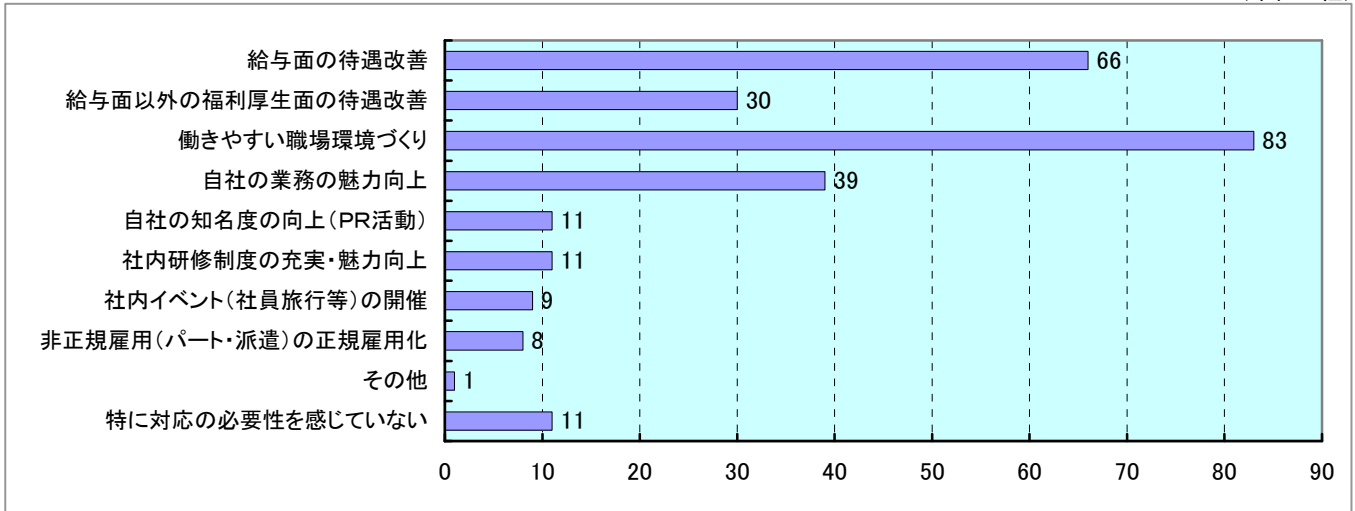
積極的な正社員採用に関しては、回答企業の65%(75社)が「自社の業況の改善」と回答し最も多く、次いで「欠員の発生」が55社(45.8%)、「従業員の高齢化の進行」が49社(40.8%)、「景気見通しの不透明感の払拭」との回答が46社(38.3%)と続いています。

全ての業種において、「自社の業況の改善」が図られれば、積極的に採用を行いたいと考えている経営者が多い結果になっています。

◆ 大手企業を中心に賃上げの動きが広がるなか、貴社では、人材の定着を図るため、どのような対応が必要だとお考えですか。

(回答企業数：120社) ※各社3つ以内で複数回答

(単位：社)



人材定着のための対応については、「働きやすい職場環境づくり」が83社(69.1%)と最も多く、次いで「給与面の待遇改善」が66社(55.5%)、「自社の業務の魅力向上」が39社(32.5%)、「給与面以外の福利厚生面の待遇改善」が30社(25.0%)と続いています。

待遇改善や環境整備への対応が必要と考えている経営者が多いことがうかがえる結果となりました。

## 調査員のコメント

### 製造業

○前年同期に比べ受注は増加してきており、今後、収益面でも改善を見込んでいる。

こうした状況を受け、生産性の向上策と老朽化している設備の入替を検討していく方針である。  
(食料品製造業)

### 卸売業

○仕入先からの値上げ要請による仕入価格の上昇、売上高の低迷等、収益環境は厳しい状況にある。

今後、販路拡大を重点課題としたうえで、必要な人材確保のため、雇用助成金や補助金等の利用を検討し対応していく。(農畜産物・水産物卸売業)

### 小売業

○昨年4月の消費増税の影響は薄らいできており、売上高もやや増加に転じてきているものの、仕入価格の上昇による利幅の減少が課題となっている。

地方創生策により、地方自治体から「プレミアム商品券」の販売が開始されており、本効果による売上増加に期待している。(織物・衣服・身のまわり品小売業)

## サービス業

○観光シーズン到来により売上は安定してきている。しかしながら外国人観光客の割合が多く、宿泊単価が低いことから利幅の確保が課題であり、日本人観光客の確保のため、大手旅行会社等への積極的な営業活動を行い、集客増加に努めている。

(旅館、その他の宿泊所)

## 建設業

○春先は公共工事等の受注が減少傾向にあることから、民間工事の受注へシフトしている。今後、公共工事を中心とした売上増加を見込んでいるが、特に若年層における人材確保が課題である。

(総合工事業)

## 不動産業

○不動産の流通において、首都圏に比べ地方では未だ積極的な動きは感じられない。山梨県は空家率が高く、田舎暮らしの希望者も多い地域であることから、こうした状況を活用した販売戦略を検討している。(建売業・土地売買業)

## 編集後記

このたびの中小企業景気動向調査におかれましては、皆様にはお忙しいなか、ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

今回の調査では、業況判断DIが前期比13.3ポイント悪化の▲11.6と、前期までの4四半期連続の改善から悪化に転じました。要因として円安による原材料価格の上昇等により利益の確保に苦慮しているとの回答が多くみられました。来期の見通しについては、依然厳しい状況ながら売上増加への期待感がみられ、売上DIにおいては今期実績比10.0ポイント改善の14.2と見込まれています。

また今回の特別調査では「中小企業の賃上げと人材確保の取組みについて」調査しました。大手企業を中心に賃上げの取組みが広がる中、本調査でも4割の企業で賃上げを実施したという結果となりました。しかし、多くの経営者が従業員の待遇改善を考える一方で、自社の業績や景気の不透明感から、賃上げや新規社員の採用になかなか踏み切れないという声も多く、今後の景気の先行きを見極めたいとの声が多く聞かれました。

このような状況下、当金庫といたしましても、中小企業の皆様に積極的に支援していく所存ですので、引続き当金庫をご利用いただきますようお願いいたします。